## 日本の携帯事情

情報環境論(2)

# 音声通話とデータ通信

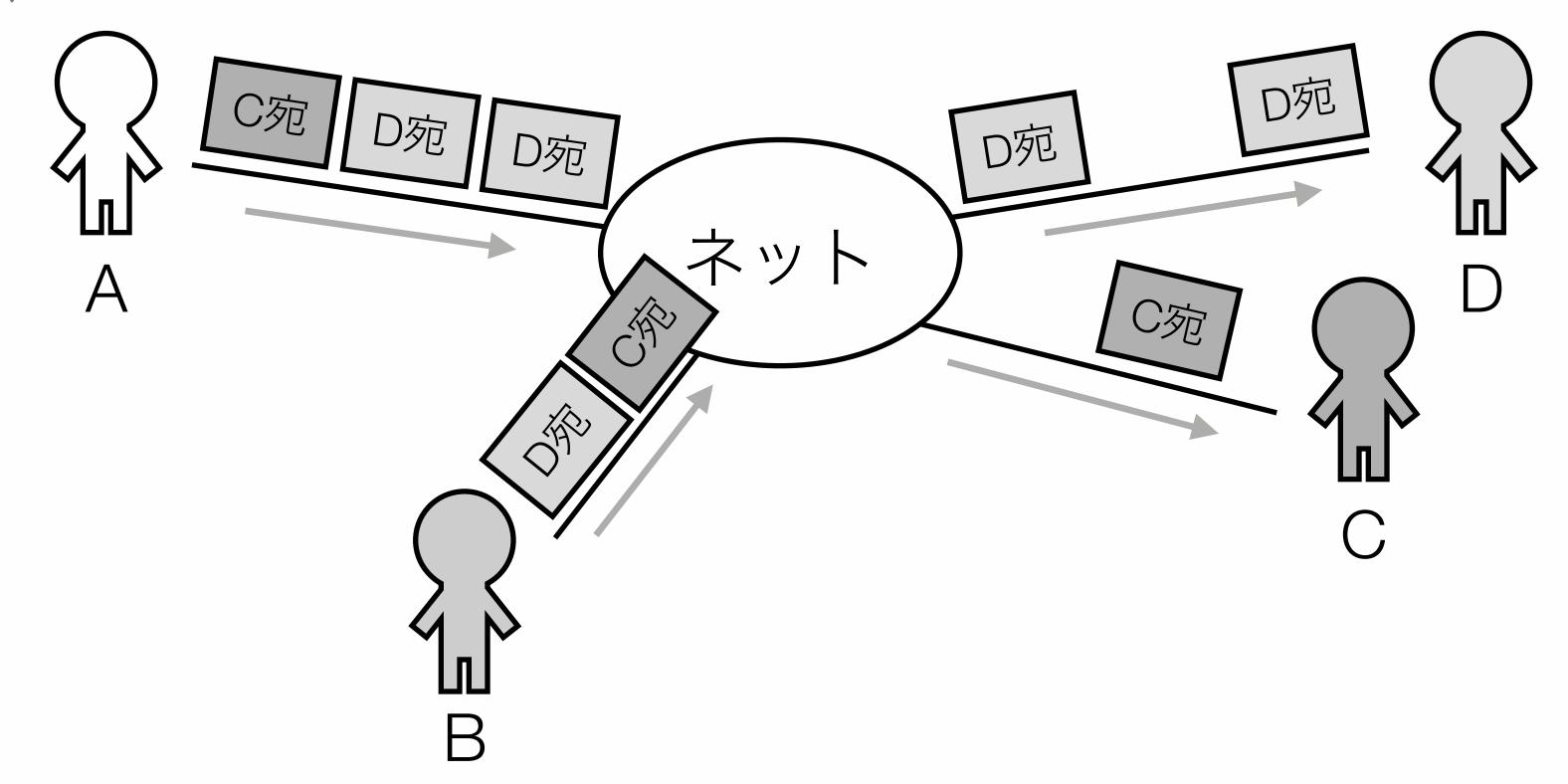


#### LTE

- LTE = Long Term Evolution(3.9G)
- 下り50Mbps~/上り25Mbps~
- 世界共通規格
  - ✓ 周波数帯は 29(FDD) + 12(TDD) バンド
- ・ データ通信(パケット交換方式)のみサポート
  - ✔ 音声通話(回線交換方式)は未サポート
  - ✓音声通話はVoltE

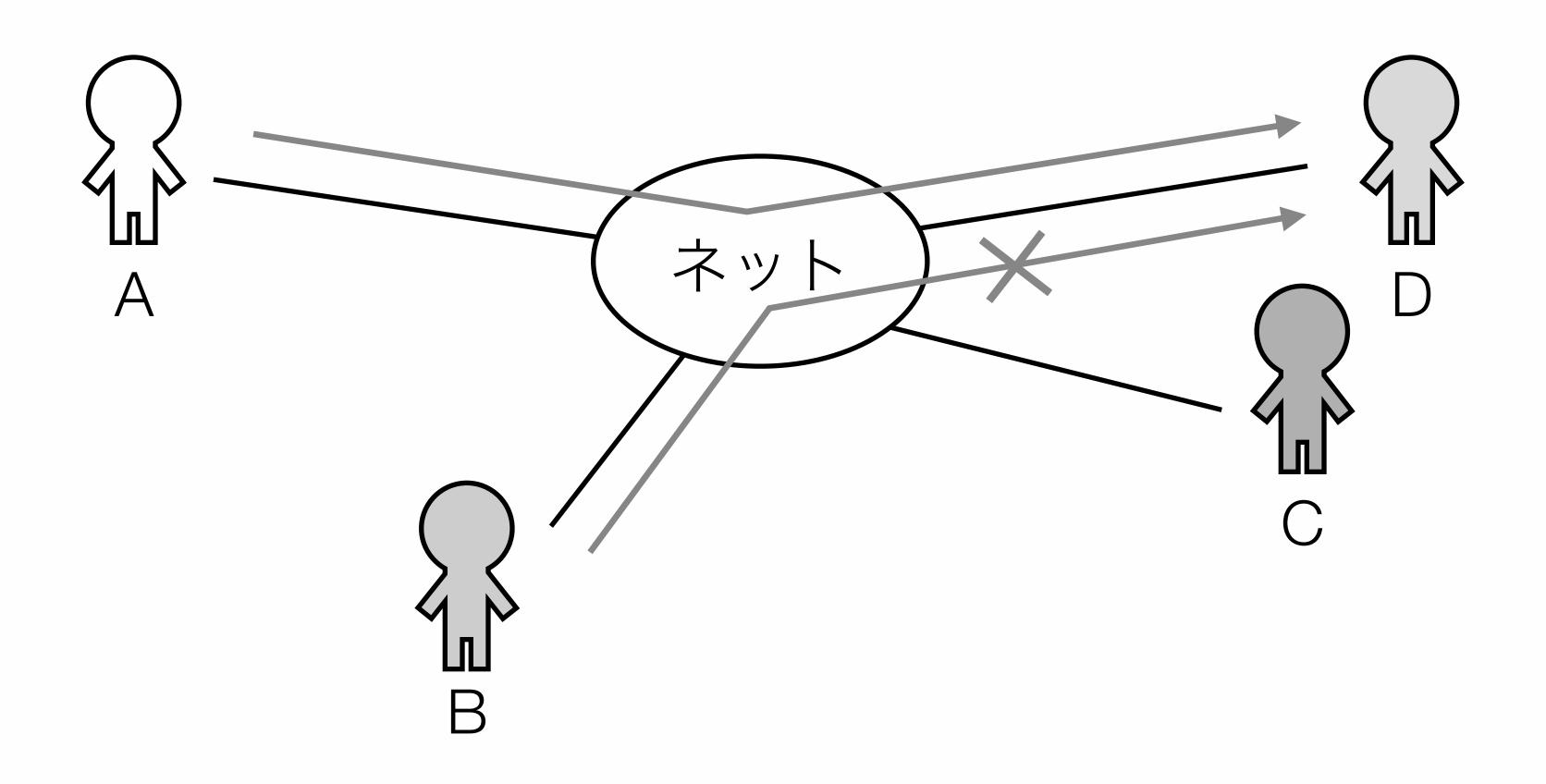
### パケット交換方式 → 回線交換方式

- ・パケット交換方式=データを分割して送受信
  - ✔ 複数の相手と同時に通信 → 帯域の有効利用
  - ✓障害に強い

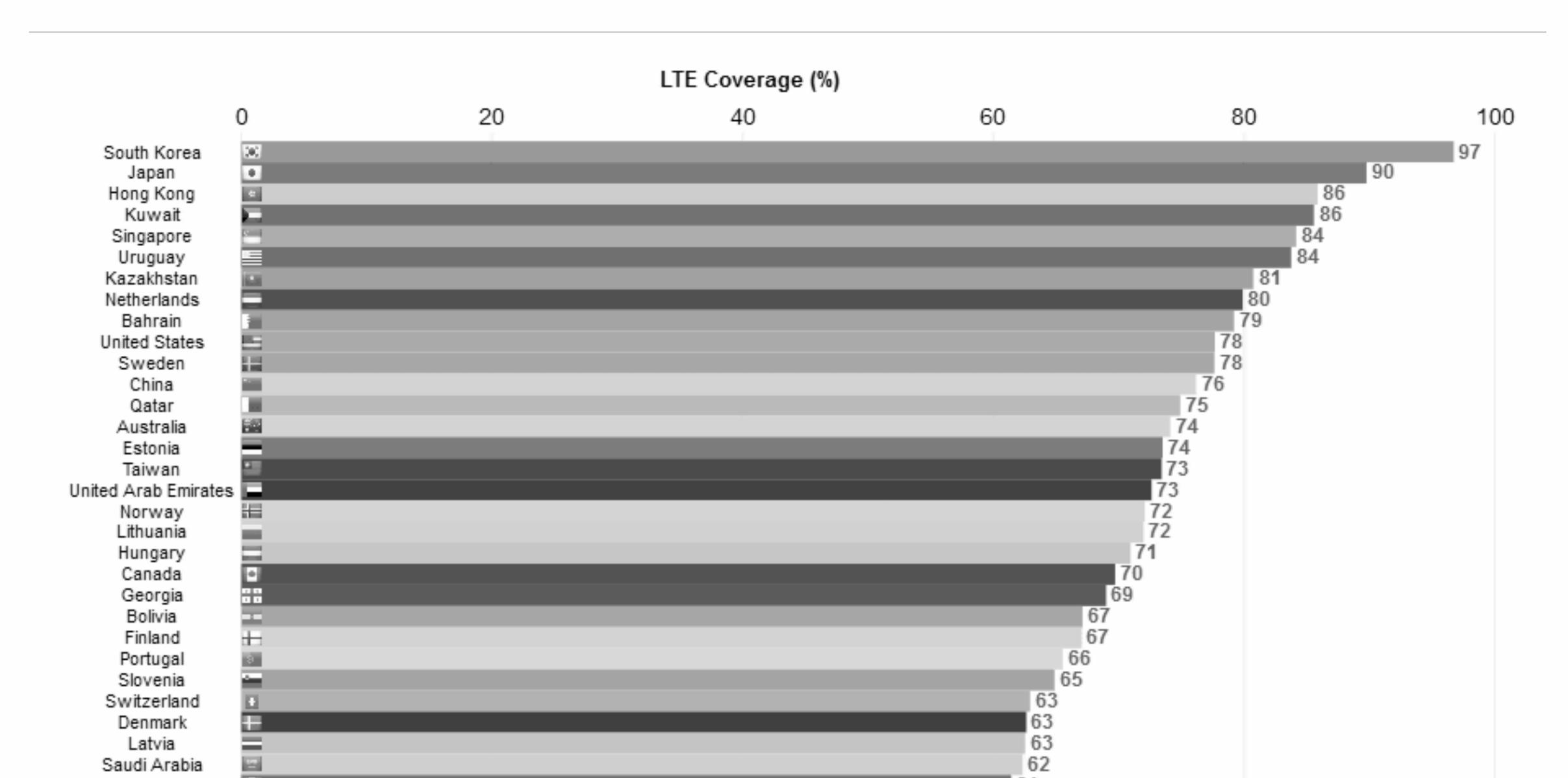


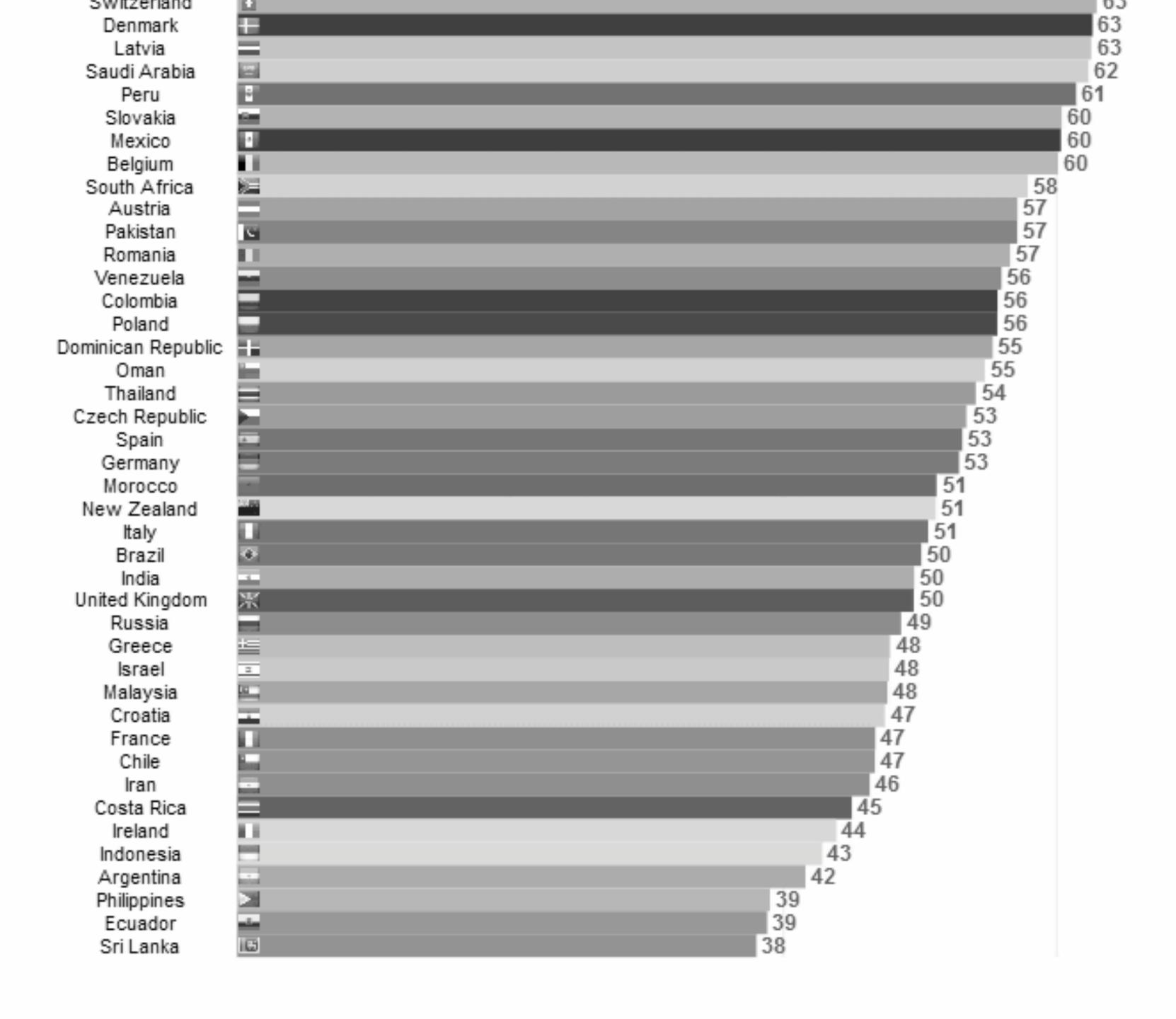
## パケット交換方式 → 回線交換方式

・回線交換方式=通信者間に占有伝送路を作成



## 世界におけるLTEの普及率 (2015Q3)





OpenSignal

## LTE以前のデータ通信方式

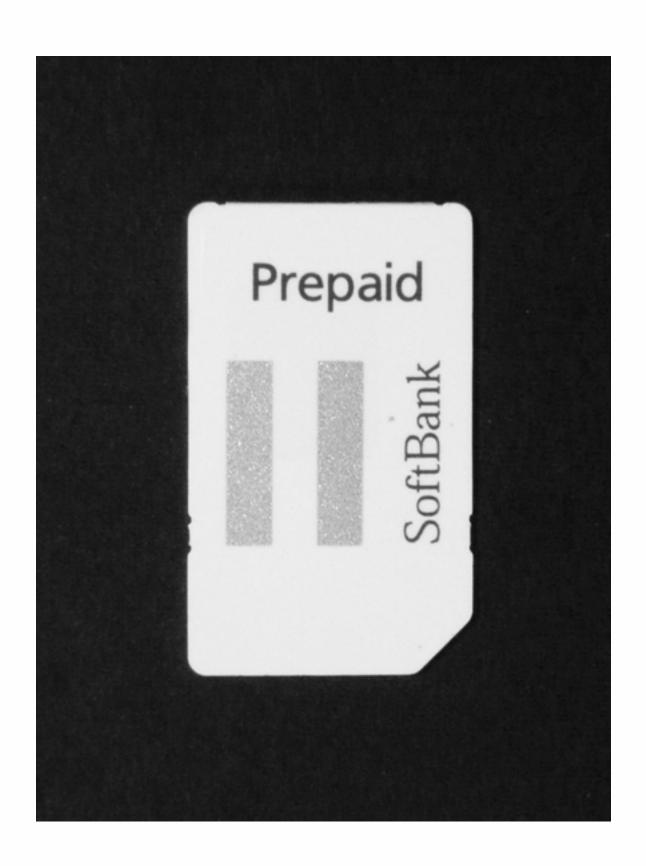
- ・GSM網におけるパケット通信
  - GPRS: 21.4~171.2kbps
  - EDGE: 59.2~473.6kbps
- · 3G / UMTS
  - · 384kbps~7.2Mbps (HSDPA)

#### GSM

- 第2世代携帯電話規格
- ・欧州や発展途上国をはじめ未だに世界中で利用(2014年で70%弱)
- ・ 日本は別規格 (PDC)

#### SIMカード

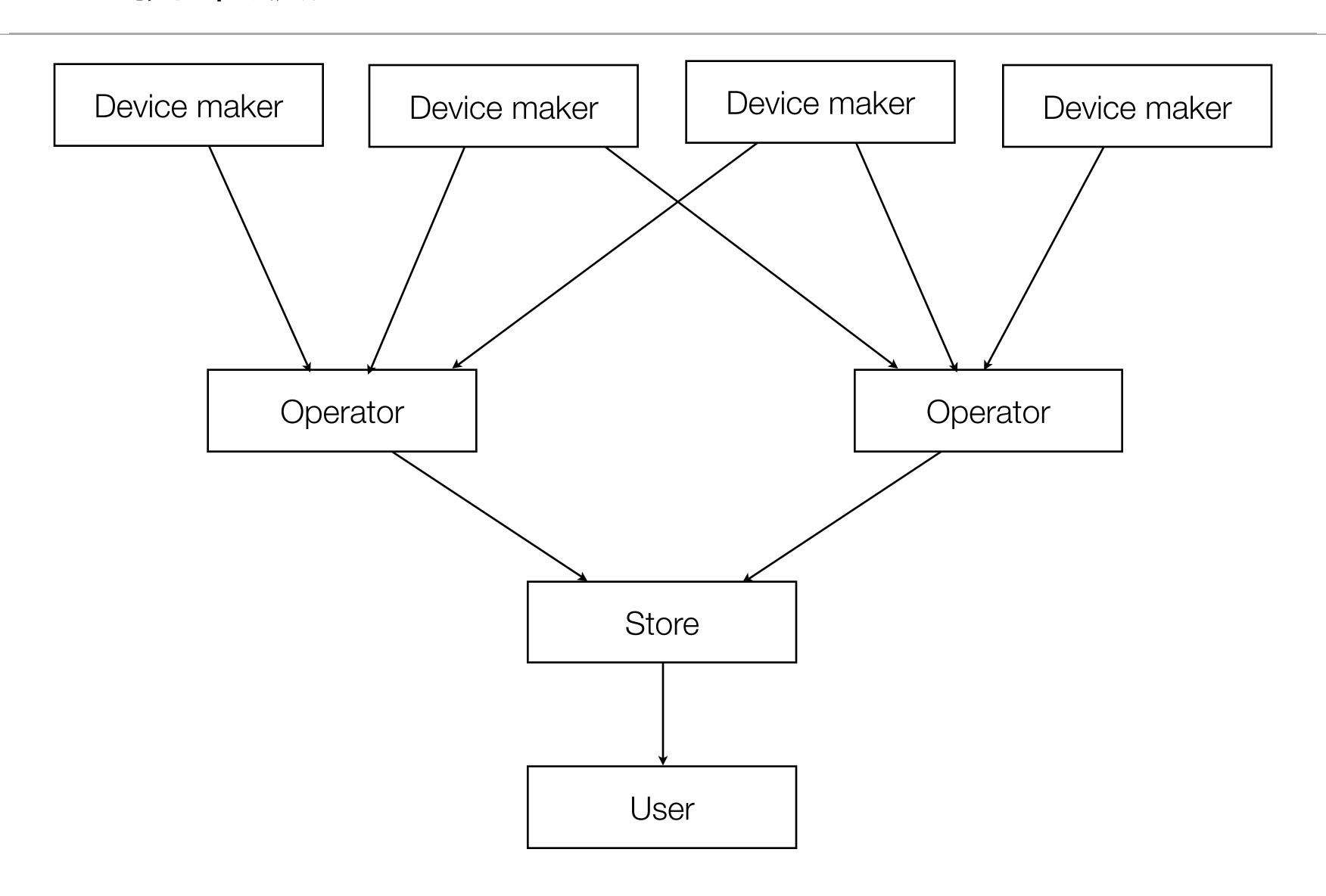
- ・キャリアとの契約媒体=電話番号はSIMカードと紐付けされている
- 元々はGSM携帯用(3G用は正式にはUIMカード)



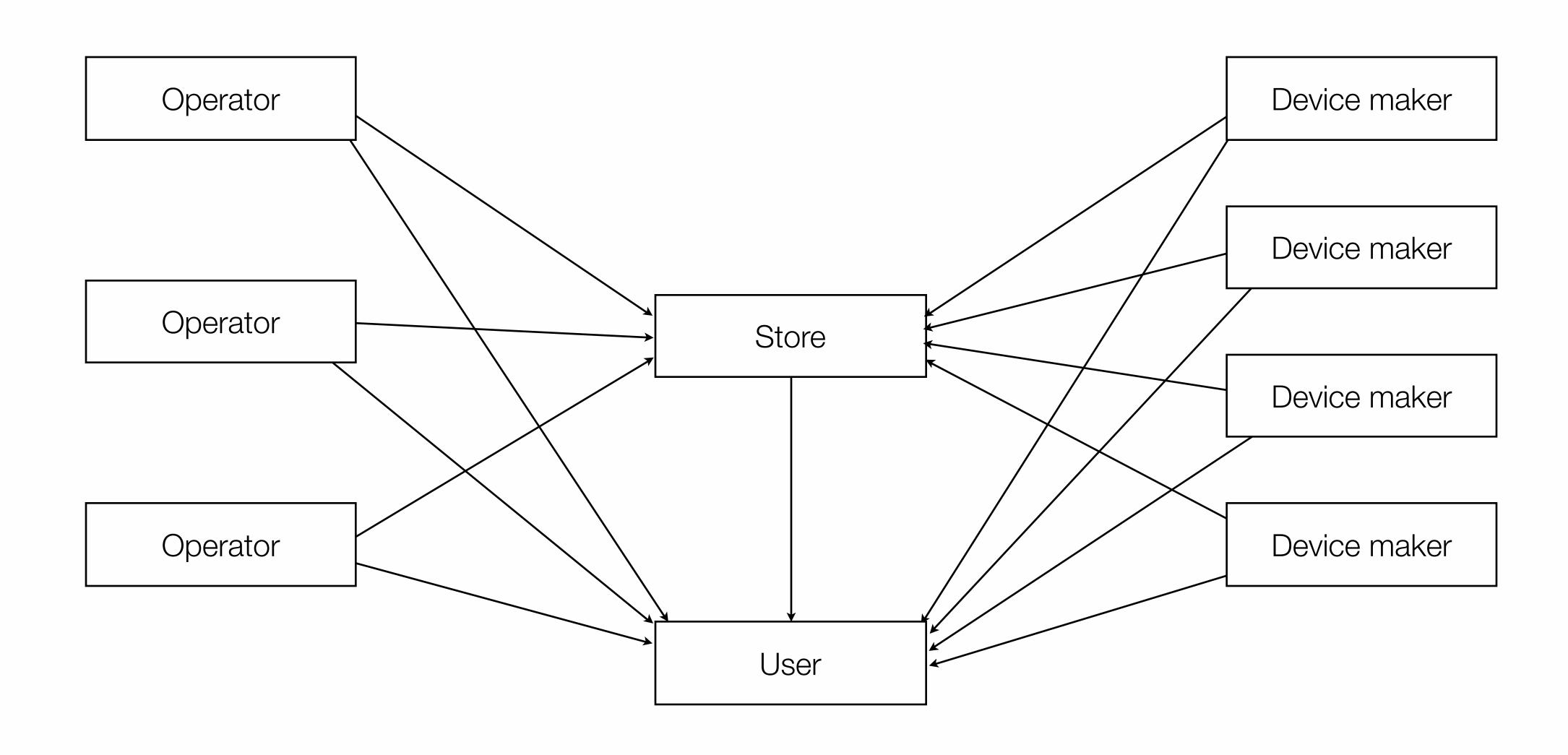
### SIMロック

- ・携帯端末の機能-使用できるSIMカードを限定 → キャリアを限定
- ・ 日本式の携帯販売
  - ✓ SIMロック端末+キャリア契約(SIMカード)=護送船団方式
  - ✓ インセンティブ (販売奨励金) → 安い端末 ⇔ 高い通信量

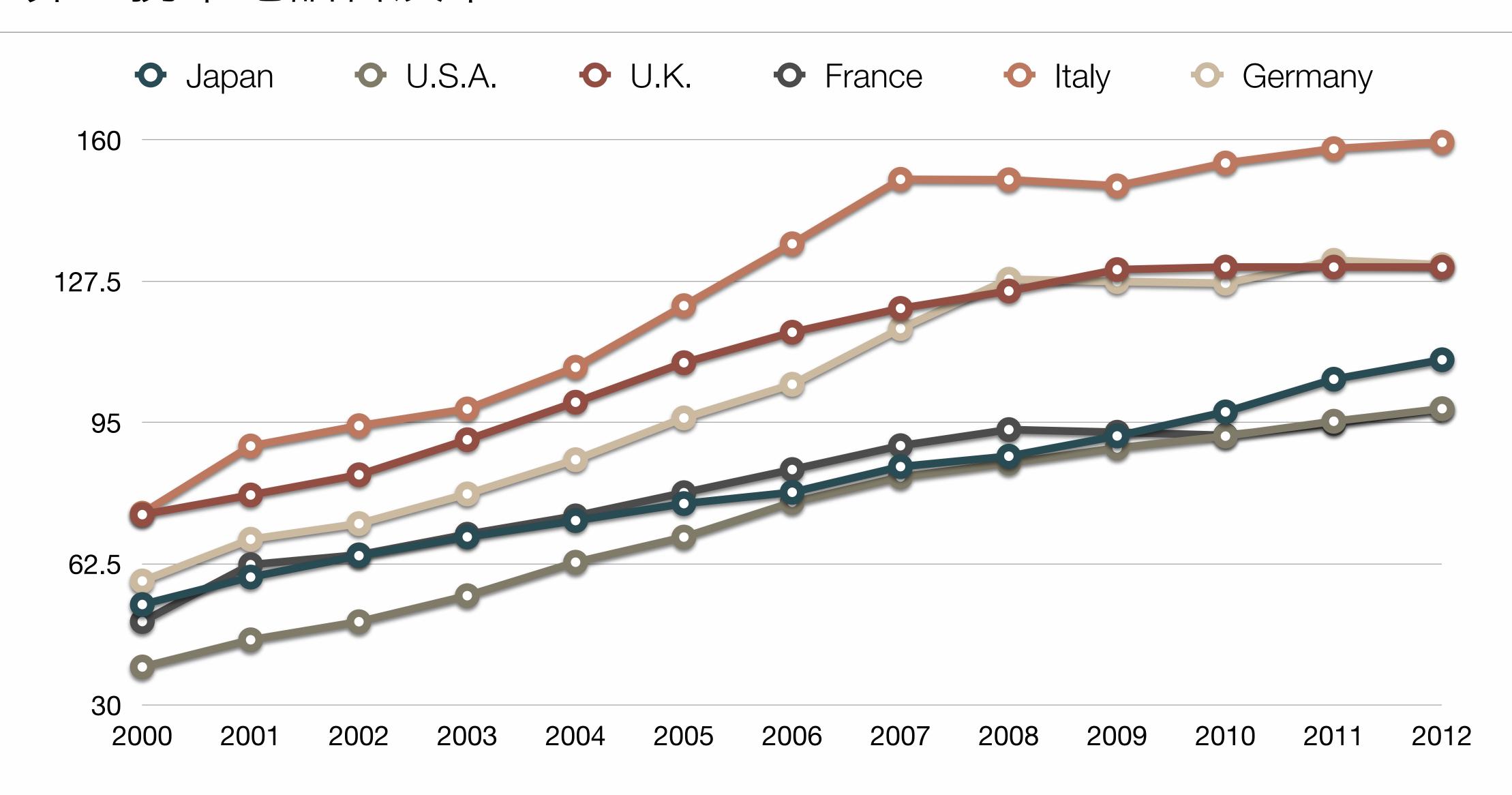
## 日本における携帯販売モデル



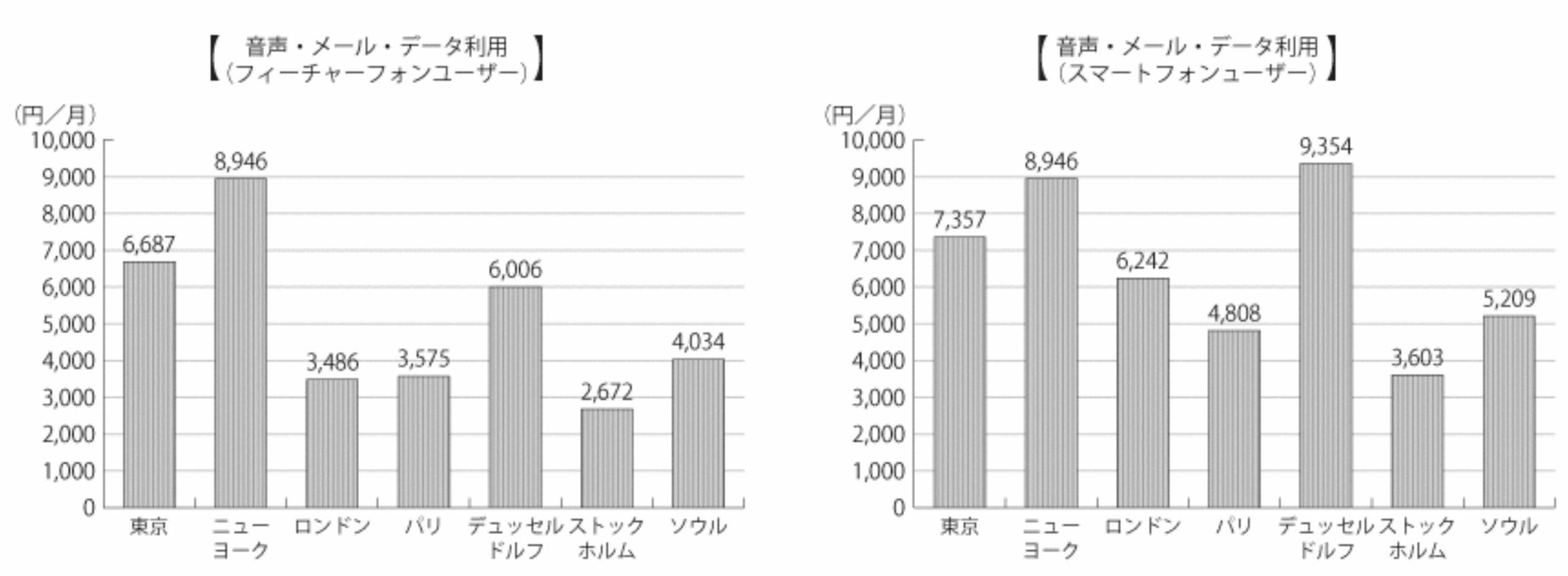
## 欧州における携帯販売モデル



# 世界の携帯電話普及率



### 携帯電話料金の国際比較(平成23年度)



※我が国の携帯電話の利用実態を基に、フィーチャーフォンユーザーは1月当たり通話99分、メール438通(うち発信215通)、データ155MBを利用した場合の各都市の料金を、スマートフォンユーザーは1月当たり通話61分、メール438通(うち発信215通)、データ1.6GBを利用した場合の各都市の料金を比較した。<br/>
※ただし、携帯電話の料金体系は様々であり、利用パターンや使用量によって順位が変わることがある。

#### SIMロック解除の義務化

- ・ 2015年5月以降に発売の携帯電話からSIMロック解除を義務化
  - →端末はそのままに安いキャリアへ移動可能

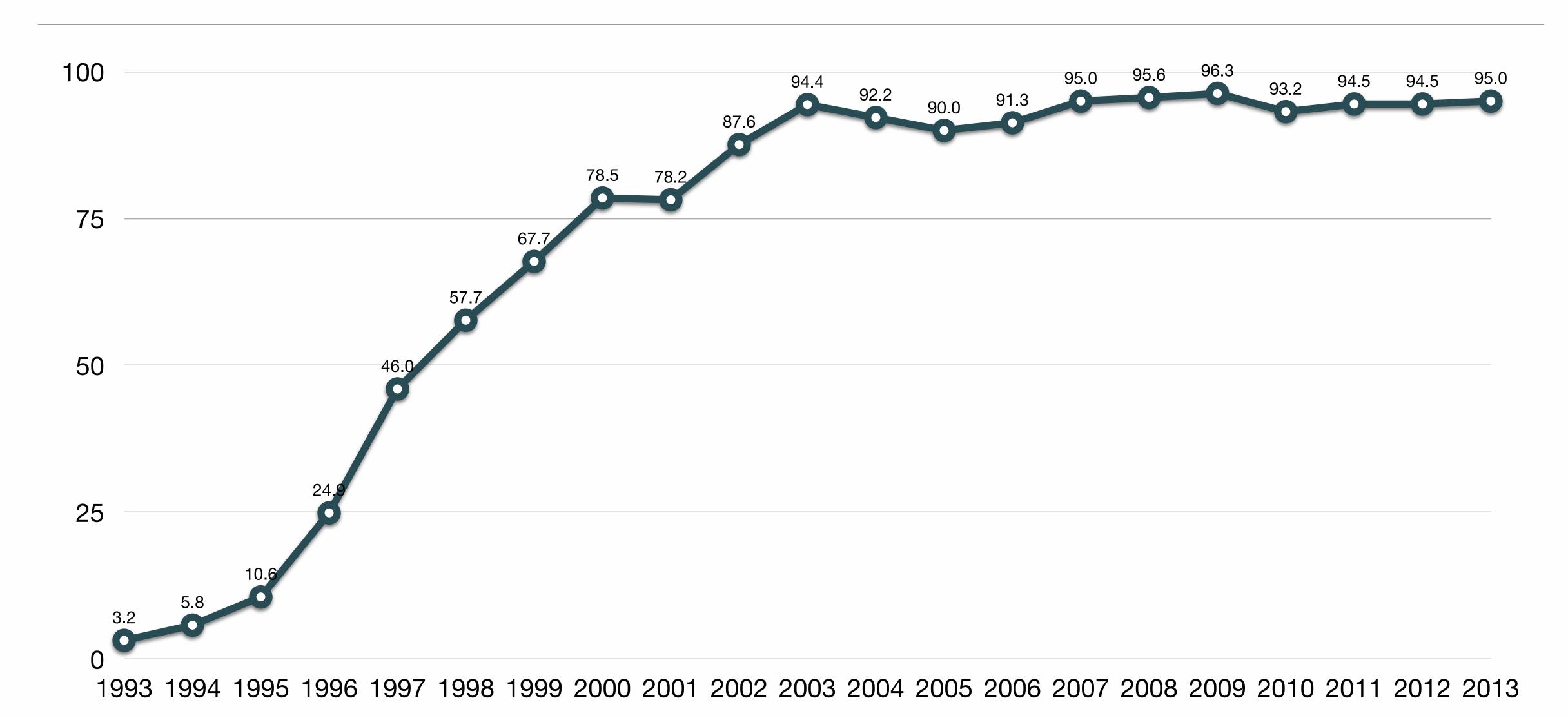
## MVNO (Mobile Virtual Network Operator)

- MVNO=MNOからネットワークを借りて通信サービスを提供⇔ MNO=自前でネットワークを所有するオペレータ
- ・設備投資が不要または少ない+帯域借り
  - ✓通信価格が安い
  - ✓通信品質

### 護送船団方式の功罪

- ・高度な携帯端末を安く
  - ✔ 1990年代後半の携帯電話の急速な普及の原動力
  - ✓ガラパゴス化

## 日本における携帯電話普及率の変化



### ガラパゴス携帯 (ガラケー)

- ・日本の市場に特化した高度な携帯電話
  - ✔ 高精細ディスプレイ (漢字表示の必要性)
  - ✓インターネット接続
  - √ キャリア主導のコンテンツサービス
    - ・ 着メロ / 着うた
    - ・アプリ
    - ・お財布携帯
    - ・ワンセグ

## ガラパゴス化 (Galapagosization)

- 1. 国内市場=特殊な環境 (ニーズ、法規制など)
  - ⇔国際市場
- 2. 国内市場に極端に最適化
  - ⇔国際標準(デジュリスタンダード)
- 3. 取り残される → 国際競争力の低下

## ガラパゴス化の例

- 日本
  - ✓ PC
  - √ SNS
  - √ カーナビ
  - √デジタル放送
  - ✓ NFC
- 海外
  - ✓ SUV (北米)
  - √ミニテル (フランス)